

ジョン・デューウィー

八木先生

JPN-470TU

2024年4月19日

翻訳間の不一致：英語と日本語の言語単位の意味的連関の比較

はじめに

コンピューターによる翻訳は入手しやすく高速な共通翻訳ツールである。しかし、人間翻訳者が2言語間の言語的矛盾を翻訳できるので、その翻訳者の方がコンピューター翻訳者より優れている。それで、コンピューター翻訳者優秀になるために、2言語間の別々な言語的矛盾が管理して確認しなければならない。それで、コンピューター翻訳者優秀になるために、2言語間の別々な言語的矛盾を管理して確認しなければならない。

この研究の目的は、言語的矛盾である。私は英語と日本語の間の矛盾を確認し、矛盾管理するために、翻訳手順を設ける。英語と日本語は、近現代までに孤立した歴史があるので、矛盾を確認するのに適した候補者である。よって、2言語は多様で、多くの可能な矛盾を確認できよう。

慣用語の矛盾

一番目の英語と日本語の間の矛盾は慣用語である。慣用語は、原語（SL）内でははっきりと分かることができる。その文化特有の表現である。それらは、その文化がどのような世界を見るはっきりと表す。慣用語の直訳がしばしば訳語（TL）ないで予測不可能な意味をうみ出しなので、それら管理することが大切な理由である。慣用語に5型があるが、口語とことわざと俗語と引喩と句動詞である。

口語は、限定地域内で主に使う何気ないフレーズ、公式のスピーチや書き言葉のためには適切ではないものである。

ことわざは、英知の短いフレーズで、それによて、しばしば長老から若い言語を話す人に英知が受け継がれた。それらは事実を表したり、話し合いの時に知的影響力を持っていたり、スピーチに華を添えたりするのにて、使われている。

引喩は、客観的なものを文化特有の概念に比べるフレーズである。それらは、神話的か宗教的か歴史的の物語、あるいは文化的図像に直接か間接かの比較することによって、場所や時事や他の客観的なものを引用する。

最後に、句動詞は、前置詞か副詞かまたはその両方かと動詞とのインフォーマルコンビネーションである。原動詞から対照的な意味を伝えるためにそれらを使っている。

慣用語を翻訳すると、翻訳手順にヒエラルヒーがある。初めに、翻訳者は同様な意味も語彙項目がある慣用語を産出しようとするべきである。それから、翻訳者は同様な意味でも異質な語彙項目がある慣用語を産出しようとするべきである。同様な意味がない場合、翻訳者は慣用語のパラフレーズを産出できろう。最後に、慣用語が難しいか認識不能であれば、翻訳からそれを除ける。

文化用語の矛盾

文化用語（CST）は、その文化に特有なの単語であって、文化のアイデンティティーに敏感である。慣用語のように、CSTも明瞭な文化が見る表す。CSTは3つの属性があるは、それらは「認識不能」と「不等価」と「文化的リンク」である。

「認識不能」の属性は、源流文化（SC）で概念を表しているCSTを指して、その概念が目標文化（TC）に分らないことである。「不等価」の属性は、TLで本当の等価語

がない CST を指す。最後に、「文化的リンク」の属性は、SC で概念を表していった SC の習慣か言語か環境かに直接リンクされている CST を指す。

CST の基準に加えて、「リーリア」という概念がある。リーリアは CST の文化的リンクを満たすために基準として使った、CST の特定な分類である。それらは、言語を成形する影響がある文化的か物質的かの側面に引用する。リーリアには 4 型があるのが、地理的および民族学的用語、民話や伝統や神話を指すフレーズか用語、毎日のものや行動やイベントの名前、行政単位を指す社会的および歴史的の用語である。

CST を翻訳することは、SC から概念か単語を覆さないように、特別待遇が必要である。CST の翻訳手順に影響する 2 つの姿勢があるが、「それらは海外化」なのか「国内化」なのかの姿勢である。過剰な CST の翻訳手順があるから、盛んな翻訳手順だけ説明しよう。

「海外化」の姿勢は、SC が覆されないように、CST を温存することを指す。この姿勢を使うことによって、TC は CST を暴露するために、それらは SC について習える。

「海外化」の姿勢のために盛んな翻訳手順は、CST を温存する「借用」で、可読性のために、文のさらに下に CST をトランスポーズする「補強」である。

「国内化」の姿勢には、TL を読む者が翻訳が分かるように、CST を修正することを指す。「国内化」姿勢のために盛んな翻訳手順は、SC での CST を同じ「状況同値性」がある TC での CST に替える「適応」で、外来語を使っている代わりに客観的に CST を記述する「記述」である。

日英翻訳の矛盾

日英翻訳の文脈では、多くの矛盾が見つげられる。その矛盾の一つは語順である。英語で、文は主語ー動詞ー目的語（SVO）の語順に従う。しかし、日本語では主語ー目的語ー動詞（SOV）の語順に従う。よって、この矛盾を管理するためには、両方の言語の統語論について十分な知識が必要である。

別個の矛盾は、フレーズ指向である。英語で、話す者は意味を推進するのに名詞に頼る。フレーズ指向を管理すると、名詞句か動詞句か替えるに、特定の語彙項目を転位することが必要である。

もう一つの矛盾は、敬讓語である。日本語で話す者は、謙虚としての姿勢を描くとか尊敬を發揮するために、敬語と謙讓語を使う。英語にこの言語使用の翻訳は誤解を招く可能性がある。よって、この矛盾を管理するために、翻訳者は敬語と謙讓語を使うことの動機を分かる必要あるように、英語翻訳は日本語フレーズの同じ文脈を似合える。

最後に、助詞の矛盾が日英翻訳を複雑にする。助詞は、英語に十分なイコールがなく、日本語の言語機能である。よって、いくつかの助詞は英語に語彙項目として翻訳することが難しい。特定の前置詞は語彙項目として扱える。しかし、「が」や「は」や「を」の助詞は語彙項目として翻訳できない。よって、この矛盾を翻訳すると、英語の語彙項目を表しているかどうか決めるに、翻訳者は助詞の文脈機能を分かるべきである。

結論

このプロジェクトで、日英翻ることが訳と普通の翻訳の両方のために、矛盾を確認して翻訳手順を見つけ私はできた。重要な収穫は、すべての言語が独自で、SLのフレーズの意味を捉えるために、翻訳には語彙項目の敏感な移動をすることが必要であるということである。多く練習することも、語学のために生来の動機があることも必要であるので、翻訳は難しい作業である。実は、翻訳者はSLとTL読み物の多読と、SLの言語学

的と語彙的との属性についての広い識と、書く練習することの徹底した記録と、聞く練習することの徹底した記録を持たねばならないでとすべきである。その属性は、難しいフレーズから白然な翻訳を産出することが知られる良い翻訳者になる。

矛盾のために翻訳手順があることは、より多くの有能なコンピューターによる翻訳者の可能性を意味する。しかし、自然言語の翻訳内で、コンピューター翻訳者が人間翻訳者を上回れることはあり得ないままである。矛盾の一部は、たとえば慣用語は、等価熟語を探すために、複雑で抽象的なメソッドが必要である。しかし、CST や語順のような矛盾には、等価翻訳を探すために簡潔なルールがある。